

第73回地域の会ご説明資料

6号機の上下動が大きいことについて

平成21年7月1日

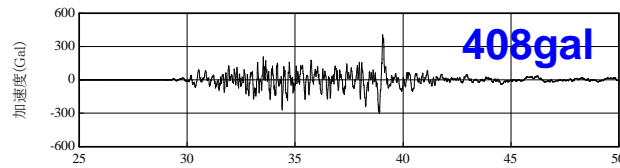


東京電力

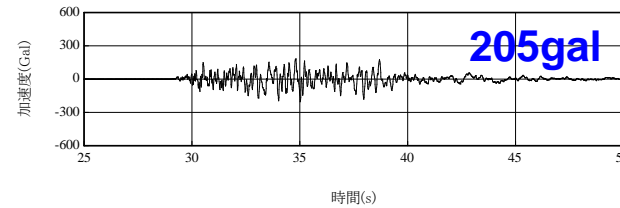
中越沖地震で観測された基礎版上の観測記録

- 原子炉建屋基礎版上の上下動は、6号機が最も大きい。
(最大値の生起時刻は35秒付近)

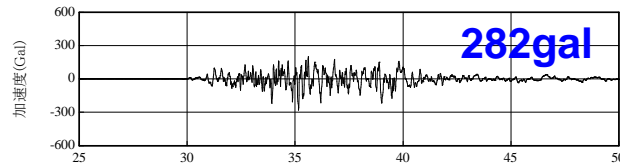
1号機



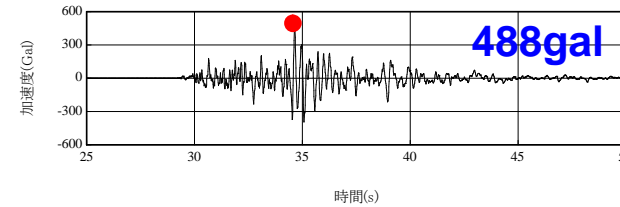
5号機



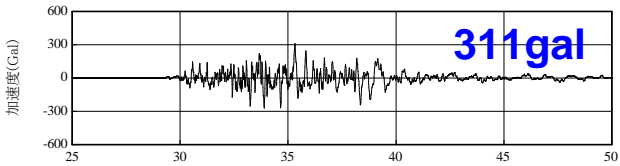
2号機



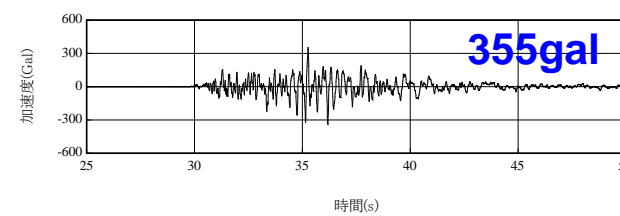
6号機



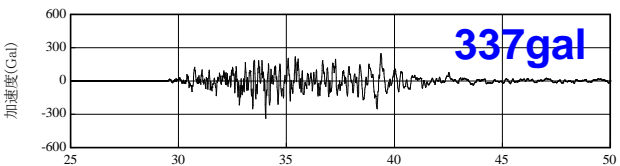
3号機



7号機

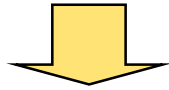


4号機



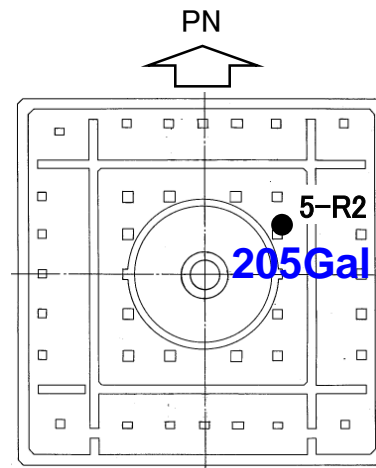
5号機、6号機、7号機の地震計配置位置

- 同じ大湊側でも、6号機上下動の最大加速度が特に大きい。
- 何故、この差が生じたのか？

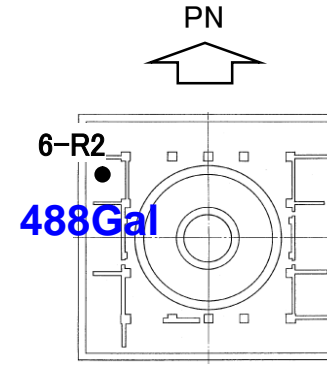


● 建屋ロッキングの影響

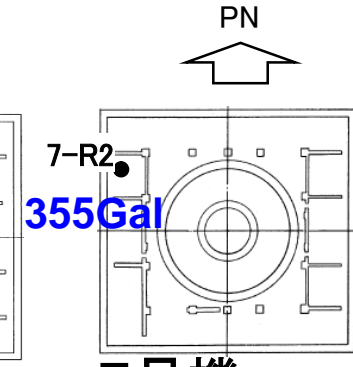
- ①地震計は各号機とも建屋の中心から離れた位置にある。
- ②地震時に建屋は水平方向に振動（スウェイ振動）するとともに回転方向に振動（ロッキング振動）する。
- ③地震計の観測値は、このロッキング振動の影響を受けている可能性がある。



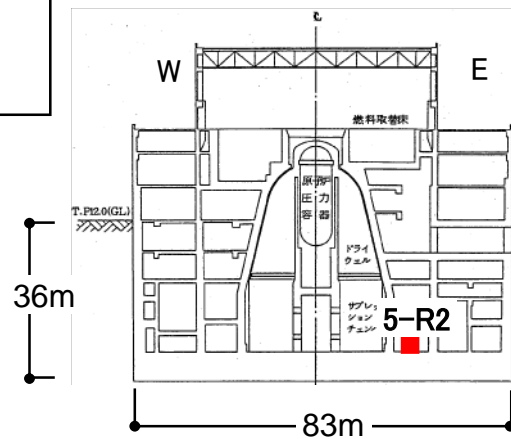
5号機



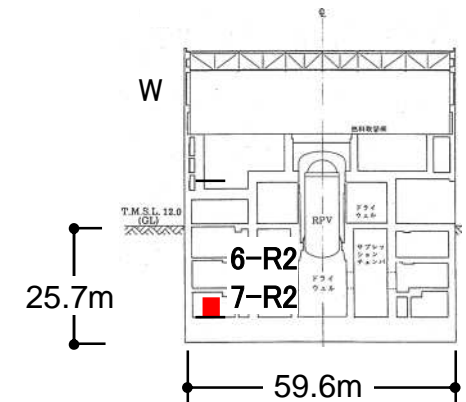
6号機



7号機



5号機



6号機／7号機